

が異なるので必ずしも共存しているとは言えない。ヒメドロムシ科以外の水生甲虫では、ガムシ科のマルガムシ *Hydrocassis lacustris* (Sharp, 1884) も同時に採れることが多い。

採集方法

ヒメドロムシ類の採集に使用する道具は、既存のタモ網をそのまま使うだけではなく、ナイロンや木綿などの布を加工して様々な形態・サイズのネットを自作したり、金魚網に穴を空けてゴミとヒメドロムシを選り分けるように加工したりするなど、ヒメドロムシ屋各人が工夫を凝らして製作しているようである(林・島田, 2006: 初宿ほか, 2008 など)。筆者らの経験では、ツルギの採集に関して道具は必要ない。水量が少な過ぎるため網を入れる隙間がないことが一番の理由である。礫を一つ一つひっくり返して目視で探すのが一番効率的で、個体数の多い場所では数個目の礫で見つかることもある。礫の大きさは気にせず、手当たり次第めくっていけば良い。指で摘める数センチ程度の大きさの小石から腰を入れて全力でなんとか起こせるような巨岩の下から見つけたこともある。砂に埋まっている礫からは見つけた記憶がないので、少し浮いた礫がよさそうである。生息地では水量の多い箇所も部分的にあるので、そのような場所の礫を持ち上げると衝撃で礫から離れて流下する個体が目視で確認できる。そのようなと

きは下流で小さなネットを構えておけば良い。また、めくるには小さすぎる砂礫が堆積している箇所も部分的にあるので、通常通り砂礫をかき回してネットで受ける方法も有効である。

謝辞

末筆ながら、標本写真を撮影していただいた石川県ふれあい昆虫館の渡部晃平氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 林 成多・島田 孝, 2006. 島根県東部および隠岐諸島のヒメドロムシ類. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 127-143.
- 稲畑憲昭, 2016. 京都府のヒメドロムシ, *Insect* 丹後・丹波, (130): 2-18.
- Kamite, Y., 2015. Revision of the genus *Optioservus* Sanderson, 1953, part 2: The *O. maculatus* species group (Coleoptera: Elmidae). *Koleopterologische Rundschau*, 85: 197-238.
- 上手雄貴, 2015. 日本産 *Optioservus maculatus* 種群の和名について. さやばねニューシリーズ, (20): 49.
- 上手雄貴・中島 淳・林 成多・吉富博之, 2018. 日本産ヒメドロムシ科の目録と分類学的な問題点. さやばねニューシリーズ, (29): 6-12.
- 緒方 健・中島 淳, 2006. 福岡県のヒメドロムシ. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 227-243.
- 初宿成彦・大阪市立自然史博物館大和川水系調査グループ甲虫班, 2008. 大和川水系におけるヒメドロムシ相および分布について. 大阪市立自然史博物館研究報告, (62): 47-64.

(2018年12月20日受領, 2019年2月10日受理)

【短報】沖縄県伊平屋島におけるタマムシの記録

オオシマルリタマムシ *Chrysochroa fulgidissima alternans* Waterhouse, 1888 は、タマムシ *Chrysochroa fulgidissima* (Schonherr, 1817) の奄美・沖縄亜種(大桃・福富, 2013) とされている。本亜種の分布は、奄美大島・徳之島・沖永良部島・沖縄島・久米島が知られている(林, 2006; 大桃・福富, 2013; 定木・久保田, 2016)。今回筆者は、現在まで分布が知られていない沖縄県伊平屋島において(松村ら, 2017)、本種を採集したので報告する。

1♂, 沖縄県島尻郡伊平屋村(伊平屋島)島尻, 21. IX. 2018 (図1), 筆者採集・保管。

伊平屋島南部に位置する賀陽山(標高294 m)山頂付近にて、17時頃、クワノハエノキの葉上に静止する本種の♂成虫を発見し(図2)、石灰岩の崖から身を乗り出して手掴みにて採集した。また、本種の発生時期は一般に6~8月とされているが、今回採集した個体は9月末にも関わらず外形に欠損箇所は認められなかった。

記録にあたり、本種に関する諸情報をご教示くださった福富宏和氏(石川県)に、深く御礼申し上げます。

引用文献

- 林 信一, 2006. 久米島でオオシマルリタマムシを採集. 月刊むし, (430): 14.
- 松村雅史・野林千枝・長田 勝・小浜継雄・山崎仁也, 2017.



図1. 沖縄県伊平屋島産オオシマルリタマムシ。(スケールバーは10.0 mm)

伊是名島, 伊平屋島の鞘翅目記録. 琉球の昆虫, (42): 8-15.
 大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本産タマムシ大図鑑. 206 pp. むし社, 東京.
 定木良介・久保田達也, 2016. 久米島におけるオオシマルリタマムシの記録. 月刊むし, (539): 58.



図2. 賀陽山山頂付近のクワノハエノキの葉上で静止するオオシマルリタマムシ (矢印).

(宮尾真矢 412-0026 御殿場市東田中 1795-2)

【短報】福岡県におけるキボシケシゲンゴロウの初記録

キボシケシゲンゴロウ *Allopachria flavomaculata* (Kamiya, 1938) は体長 2.5 mm 前後の流水性の小型の水生甲虫で, 国内では北海道, 本州, 四国, 九州, 離島では隠岐島後, 福江島, 対馬, 種子島, 屋久島から記録されている (森・北山, 2002; 林ほか, 2006). 筆者はこれまでに記録がない福岡県において本種を採集したので, ここに報告する. 標本は筆者が保管している.

1 ex., 福岡県糟屋郡久山町猪野 多々良川水系猪野川, 17. X. 2018.

本個体は水質が良好な河川上流域の瀬の岸際の砂利中から得られたもので, その後探索を行ったものの追加個体は得られなかった. 本種の背部斑紋には変異があり, 特に屋久島産では同属のフタキボシケシゲンゴロウ *A. bimaculata* (M. Satô, 1972) と同様 1 対のみの斑紋をもつ個体が出現することが知られている (森・北山, 2002). 今回採集した個体の背部斑紋は 3 対で, 典型的なキボシケシゲンゴロウの特徴を有していた (図 1).

九州本島ではこれまでに長崎県, 大分県, 熊本県, 鹿児島県からの採集記録があるものの (森・北山, 2002), 一見本種が好むような環境でも生息

しないことが多く, 特に九州本島の北部では明らかに稀種と言える. 一方で九州本島の周辺に位置する対馬や種子島, 屋久島では比較的普通にみられる. 九州本島の河川で本種が少ない理由については現時点では全く不明であり, 今後の調査・研究が望まれる.

引用文献

- 林 成多・藤原淳一・島田 孝・米田友祐・六車恭子・成田行弘, 2006. 隠岐諸島の昆虫相に関する一資料 2005 年 8 月 7-10 日に島後で採集・観察した昆虫類の目録. ホシザキグリーン財団研究報告, (9): 245-263.
 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説日本のゲンゴロウ. 231 pp. 文一総合出版.



図 1. 福岡県産キボシケシゲンゴロウ.

(中島 淳 〒818-0135 太宰府市向佐野 39 福岡県保健環境研究所)

訂正

本誌 32 号表紙のイラストのゴミムシの学名は, *Dischisus japonicus* Andrewes, 1933 と表記されていた. しかし, 会員の森田誠司氏より, 現在は *Adischisus japonicus* (Andrewes, 1933) との学名が用いられていると指摘された. さらにその後の同氏からの私信によると, 「この機会に手元の標本を調べたところ, *A. japonicus* の学名を用いるは疑問が残る. 南西諸島の個体群ではよく灯火に飛来するが, 本州産では後翅が縮小している. また, 脚の色に変異が見られる. オスの交尾器の内部構造の研究が有効と考えられるが, 現状では行なわれていない. 東南アジアの個体群まで範囲を広げて研究する必要がある」など, 種々の問題点を指摘された.